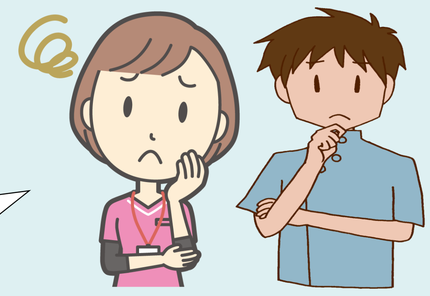
2022年度地域連携事業費採択事業

領域の異なる多職種連携による在宅医療・介護連携推進事業
～神経難病療養者が住みやすい浜松を創る～

代　表　者　：　河野貴大（看護学部）
分　担　者　：　吉本好延（リハビリテーション学部理学療法学科）
加納江理（静岡県立大学看護学部）
赤石ゆかり、小出弘寿、松下太一（北斗わかば病院）
連 携 機 関　：　北斗わかば病院

パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症などの神経難病は進行性であり、神経変性をきたす神経の系統や支配する身体部位により様々な症状・障害を呈する。

「病気の進行が予測できなくて支援のタイミングが難しい」
「病状が進行した利用者とのコミュニケーションが難しい」
「困ったときに誰に相談したら良いかわからない」
「自分の支援が利用者のためになっているか自信が持てない」



神経難病療養者の在宅療養を支援する専門職

在宅療養を支援する訪問看護師や介護士、ケアマネジャーは多くの不安や困難感、負担感を抱いている

2018年　**「神経難病療養者支援者の会」**発足

在宅療養者が病期に応じて必要な支援を受けることができるように、
支援者のスキルアップを目的とした研修会や交流会の企画・運営を行う。

メンバーは病院看護師や訪問看護師、理学療法士や作業療法士、社会福祉士、薬剤師など多施設・多職種で構成されている。

2022年度の目標と活動

1）神経難病療養者の在宅療養に携わる支援者の知識・技術の向上
2）神経難病療養者の支援に関わる多職種間の「相談しやすい関係づくり」の推進

① 神経難病療養者とのコミュニケーションに関する研修会

② 介護福祉士、訪問介護員を対象とした透明文字盤に関する研修会

③ ALS療養者の呼吸リハビリテーションに関する研修会

④ ケアマネジャーを対象とした透明文字盤に関する研修会

隔月開催する会議で神経難病療養者の在宅療養支援についての情報共有や課題の抽出、研修会の企画・相談など

2022年度の活動の評価と考察

・4つの研修会は、いずれも参加者の満足度は高く、有意義な時間であったと回答している参加者が多かった。

・コミュニケーション機器に関する研修会では実際に機器に触れ、体験する機会を得られたことで療養者に対する理解につながったという意見が多く聞かれた。

・研修会は実際に透明文字盤や視線入力装置を体験するため、多人数での実施は難しく参加を希望していたが申し込むことができなかった者もいた。今後も継続的に研修会を企画・開催し、在宅療養に携わる支援者の知識・技術の向上を図ることが重要である。